

プラバホール利活用に関するアドバイザー会議〈まとめ〉

1. 目的

市民誰もが音楽文化に親しめる機会と環境の提供、良質な音楽の提供など、松江市の音楽文化の発展に資するための今後のプラバホールの果たす役割について、専門的有識者から助言を得る。

2. アドバイザー名簿

氏名	所属等	区分
朝枝 信彦	松江クラシックス音楽祭 音楽監督	弦楽
本杉 省三	日本大学工学部建築学科 特任教授	ホール改修
高島 勲	元日生劇場芸術参与	舞台演出
勝部 俊行	島根県合唱連盟 理事長	声楽
西尾 俊也	元島根県民会館館長	ホール運営
長岡 慎	松江総合文化センター 芸術監督	芸術監督（管楽）
大隅 宏明	NPO法人松江音楽協会 常任理事	総合

3. 開催実績及び予定

平成 30 年 2 月 現地視察会
 平成 30 年 4 月 第 1 回アドバイザー会議
 平成 30 年 10 月 第 2 回アドバイザー会議

4. 主な意見と今後の対応

(1) 文化振興について

【意見】

- ・松江市では、中長期計画（総合計画など）などで、文化振興に関する記述が薄く、音楽文化をはじめとする「文化」についてあまり議論されていないのではないか。
- ・文化事業の経済的効果も考慮してはどうか。
(ホールソフト事業への投資はアマチュア・プロに限らず経済効果を生む。)
- ・文化振興条例の制定を検討すべき。

【今後の対応】

- ・松江市の文化振興事業を再確認し、定期的に見直すことにより文化の担い手育成、新たな文化創造活動、文化の魅力発信を行う。(文化振興計画)
- ・最終的に、松江市の文化振興事業の拠りどころとして文化振興条例の制定を検討する。

『文化振興条例について』

文化芸術基本法（H29.6 改正）を拠りどころとして自治体が制定する条例。

主に、文化施策を推進するにあたっての、「基本理念」「責務・役割」「基本的施策」を定める。

(例)京都市文化芸術都市創生条例、奈良市文化振興条例、金沢市における文化の人づくりの推進に関する条例、宝塚市民の文化芸術に関する基本条例

(2) 今後のホールの事業展開について

【意見】

- ・ホールの目指すべき目標の設定を明らかにする。ホールの目標を定めることにより目標の達成を支える体制（人材）、設備が決定される。
- ・クラシック音楽離れは世界共通の課題である。
- ・学校で授業に音楽事業を組み入れることを検討する。
- ・観客の高齢化が進んでおり、若年層のコンサート離れが進んでいる。

【今後の対応】

- ・ホール実施のアウトリーチ事業（ホール外での主催事業）などを拡充し、他の演奏団体との連携を図り多彩な場所、シチュエーションでの演奏会、音楽講座を実施する。
- ・今後、松江市教育委員会と緊密な連携のもとに、積極的な事業の展開を行うため、管理運営体制を見直し、音楽事業の企画調整部門を強化する。

(3) パイプオルガンについて

【意見】

- ・パイプオルガンの使用状況、メンテナンス経費等を考慮すると、目指す目標によっては「必ずしも必要なものではない」という考えと、「松江市の象徴である」という両意見があるが、パイプオルガンの活用が難しいことは双方の共通の認識。



【今後の対応】

- ・パイプオルガンのオーバーホールを当面見送る。
- ・これまでのオルガン事業の総括・新規事業の創出を行い、再総括を行ったうえで今後の取り扱いを定める。(例年の点検は実施する。)

(4) 改修項目について



【意見①：大ホール】

- ・プラバホールの音響は、国内外を問わず非常に高い評価を得ている。この素晴らしい響きを持つプラバホールの存在を発信し続けることにより、「豊かで美しい響き＝プラバサウンド」として、ホールのブランド化を図る。
- ・舞台吊りものによりホール正面上部の視界が遮られている。(影の映り込みなど)

【今後の対応①'】

- ・天井、壁面改修による音質確保。
- ・舞台吊りものを可動式に変更し、照明をLED化する。
- ・録音機器の新規導入と地下配線ルートの確保を行う。

【意見②：椅子とマナー】

- ・椅子が狭いと苦情が発生している。
(椅子の横幅 プラバ 48 cm 標準 52 cm / 椅子の前後幅 プラバ 90 cm 標準 95 cm)
- ・プラバホールは国際会議場としての設備を備えているため、ひじ掛けが高い。(手元テーブル) そのためより狭く感じると考えられる。
- ・プラバホールにヨーロッパと同じ習慣を根付かせれば椅子を変更しなくてもよいのではないか。(ヨーロッパでは劇場に後から来た人のために席を立てて人を通す習慣がある。日本では席を立たず、足をよけるのみ。)
- ・ヨーロッパと同じようにすれば、狭さの解消とプラバホールのイメージが向上できる。
- ・ひじ掛けをなくすとより広く感じる。
- ・ひじ掛けによる仕切りがないと不快に思う方もおられるのではないかと。

【今後の対応②'】

- ・椅子改修を原則とする。
(改修方法については資料の考え方を原則とするが、実施設計で、より音質を考慮したより安価で効果的な工法を検討する。)
- ・ヨーロッパ標準のマナーを導入する。
- ・クローク設置による対策(手荷物の少量化)

【意見③：演者への気遣い】

- ・舞台袖の空調がないため、弦楽器のチューニングが難しい。
- ・演者向けの多目的トイレの設置が必要。(オストメイト等)

【今後の対応③'】

- ・舞台空調、演者用多目的トイレを新設。

【意見④：ホワイエの活用】



- ・子ども達のコンサートがホワイエでできるとよい。
- ・子ども達がホワイエに集まって、音楽を鑑賞するなり、自分たちでも何かできるような気楽な場があるとよい。
- ・保護者も、子どもの音楽教室的なコンサートに参加して、夜に子供と音楽の話題で話せるようなそういう環境を作るべき。
- ・空間全体がコンサート会場として使えるような工夫の検討を行うとよい。

【今後の対応④'】

- ・タペストリー等の設置による音質改善。
- ・その他天井、シャンデリアの安全対策。
- ・家具更新。

【意見⑤：ホワイエ、ロビーの活用、図書館との共存】

- ・図書館とホールとの相乗効果を期待する。
- ・図書館と共同のコミュニティスペースの設置・ホールのコンセプトの検討について。
- ・図書館から劇場へ人が流れる仕掛けを作り、劇場がひとつの広場、居場所のようになれば、新しいお客さんが増えてくる可能性があり、日常的に親しめる施設になる。
- ・「まち」に対して劇場を開いていくときは、様々な障害もあると思うが、様々な「人」を受け入れていく体制を我々の側が持つことが大事で、劇場を広場化していくための考え方をどうしたらいいか、そういう視点で改修を考えていくことが大事である。

【今後の対応⑤'】

- ・ロビーでのイベント等を考慮した改修。
(図書館入り口2重扉化、音響反射板設置)
- ・図書館と連携して事業の実施。
- ・多目的ルームの整備(1F、2F)。
- ・ロビー、ホワイエ、多目的ルームに無料Wi-Fiを設置。



【意見⑥：市民の音楽活動支援】

- ・練習、リハーサル施設があるとよい。(2F)
- ・音楽団体間のコミュニケーションの場の必要性を感じる。

【今後の対応⑥’】

- ・多目的ルームの整備(1F、2F)。(再掲)

【意見⑦：駐車台数の不足】

- ・駐車場が不足している。高齢者の中には駐車場に車を入れることができないので催事への参加を見合わせている方もいる。
- ・満空システムの整備を検討してはどうか。
- ・車でくることを否定するわけではなくて、どこかに止めて、歩いて来る人の動きが、賑わいを生むという考え方もある。

【今後の対応⑦’】

- ・公共交通機関利用促進について。
- ・大規模催事時における松江駅、ホール間のピストンバスの利用促進について。
- ・周辺駐車場借り上げについて。

(5) おもてなし対策

【意見】

- ・観客の高齢化等

【今後の対応】

- ・新規観客の獲得対策に合わせて、ホールのリピーターの皆様がより快適にホールを利用するための改修を行う。